学校だより青南

3月号

令和5年3月1日
港区立青南小学校
校長　野口　直樹

出会い

校長 野口 直樹

3 月 23 日は、第 115 回卒業式です。95 名の個性豊かな 6 年生が、巣立ちの日をむかえます。この一年間、青南小学校のリーダーとして、様々な場面でその力を発揮していて頼もしい 6 年生でした。

先日、6 年 1 組から 3 組の卒業文集を読みました。思い出について書かれたもの、将来の自分に向けて書かれたもの、人との出会いについて書かれたもの等それぞれの思いの詰まっている作品でした。「思い出」は、移動教室について書かれているものが多くありました。昨年度、夏季学園が実施されなかったこともあり、思いも強かったと感じました。「将来」については、自身の将来の夢や、中学校でやりたいこと等、未来に向けて希望あふれる作品でした。「人との出会い」について書いた作品には、お世話になった先生や支えてくれた家族・友達、憧れた先輩について書かれていました。人との出会いの作品群は、読んでいて心が温かくなりました。それらの作品には、自分を支えてくれた人たちへの感謝の心があふれていたからです。

この文集を読んでいるときに、思い浮かんだ歌があります。卒業式の定番ソングとして、中学校や高等学校で歌われているロックバンド「レミオロメン」の「3 月 9 日」という歌です。この歌は、元々作詞された、藤巻亮太さんが、友人の結婚式に向けて作ったそうです。発売された後、歌詞が、学校を巣立つ子どもたちの心情に沿ったものとして卒業式で歌われるようになったそうです。この曲に、「瞳を閉じれば、あなたが、瞼の裏にいることで、どれほど強くなれたでしょう。あなたにとって私もそうでありたい」という歌詞があります。私は、この歌詞の部分に卒業・出会い・感謝という言葉を連想します。卒業文集に書いている子どもたちもきっと、この歌詞のように出会った人たちが心強い存在で学校生活を良いものにすることができたのだと思います。

人生は、人との出会いによって大きく開かれることがあります。

ただの一介の浪人であった坂本竜馬が、赤坂氷川の勝海舟と出会い、歴史の表舞台で活躍できるようになったり、今では、誰もがその実力を疑わないイチロー選手が、仰木彰監督と出会い見いだされその後の野球人生を大きく開いたりと、出会いの大切さを伝える話は、たくさんあります。それは、メディアによって紹介される人たちだけではなく、皆さんもそのような経験をおもちだと考えます。それとは逆に、人生を変える出会いがあったのに、それに気付けないこともあります。自分を生かしてもらえる人との出会いに気付けること自体が幸福なことなのかもしれません。

青南小学校を巣立つときに、一人でも多くの子どもたちが、よい出会いが重ねられるよう、引き続き教育活動に取り組んでいきたいと考えております。

この一年間、青南小学校は、多くの人たちの支えで教育活動を行うことができました。学校の花壇を花いっぱいで飾ってくださった青南ガーデニングクラブの皆様、コロナ禍できることを考え行事を実施してくださった地域の皆様、様々な体験経験をご提供いただいたゲストティーチャーの皆様、学校教育にご理解・ご協力をくださった保護者の皆様、誠にありがとうございました。

3月の生活目標

【身のまわりをきれいにしよう】

身の回りのきれいさは、その人の心のきれいさが反映されると言われています。整理整頓ができる人は、普段からものを大切に使い、そのものに対する感謝の気持ちを忘れずにもっている表れでしょう。

今学期も残すところあと1ヶ月ほどとなりました。1 年間の学校生活が終わりを迎え、次の学年へのまとめをしていく時期となります。これまで生活をしてきた教室をはじめ机・椅子、ロッカー、学習用具等、きれいに掃除や整理整頓、手入れをすることで、感謝の気持ちや本年度の振り返り、来年度への期待感をもたせる指導を行っていきます。また、身の回りの環境をきれいにすることで心を整え、相手を思いやる気持ちを育み、友達との関わりを一層深めながら一年間を締めくくれるよう見守っていきます。

【 草田男展報告 】

「降る雪や 明治は遠く なりにけり」

これは、本校の玄関の句碑に刻まれている、中村草田男さんの有名な一句です。本校の卒業生である草田男さんは、この句碑が完成した日に、実際に本校においでになり、純真な小学生の心を永久に失うまいとの願いが込められているものだと語っておられます。

さて、そんな草田男さんにあやかって、本校では毎年2月に草田男展と称し、俳句を作って鑑賞しています。各学年教室前廊下と各階段にある掲示板に作品を展示しています。どの俳句にも、今の子どもたちにしか見ることのできないもの、感じられないものが詠まれており、その世界に引き込まれます。純真な小学生の心が、きっとそこに感じられるはずです。

【1年】

４ 月に入学したときは、何もかもが初めてで戸惑いが多かった子どもたち。日々の学校生活の中で植物を大切に育てたり、当番活動を通して協力することの良さを感じたりしました。また、遠足や運動会、展覧会と様々な行事を経験していくなかで、できるようになったことが数えきれないほどの成長ぶりでした。1 年間の成長を自身で振り返り、自分の成長を実感するとともに、残りの 1 か月間で上級生になる心の準備をしていきます。

学習もまとめの時期となります。安心して新学年の学習に取り組めるように学習しています。平仮名・片仮名・漢字、計算等は、反復練習することで定着します。子どもたちの力を信じ、担任一同力を合わせて子どもたちの指導にあたっていきたいと思います。

【6年】

いよいよ卒業式まで 20 日を切りました。6 年生にとって 3 月は小学校生活の中でも大事な行事が3つあります。1 つが「ありがとう SEINAN」です。6 年間お世話になった教職員の方々と地域の方々へ感謝の気持ちを表す会です。2 つ目が「ありがとう 6 年生」です。1～5年生までの人たちが、6 年生へ感謝を伝えてくれる会ですが、その感謝へのお礼を伝える会でもあります。そして最後が「卒業式」です。このうちの「ありがとうSEINAN」と「ありがとう 6 年生」に向けてこれまで学年全体で準備をしてきました。何のための会なのか、その意味を自分たちで考え、有意義な会にするためにみんなで考え練習してきました。そして、3 月からは「卒業式」に向けた練習が始まります。自分の成長やこれまでの学校生活を振り返り、未来に向けて思いを新たにしていくような式になってほしいと思います。全員が清々しい気持ちで卒業式を迎えられるといいなと思います。

【理科】

理科講座のご参観ありがとうございました。「くらしに見つけ くらしに広げる理科学習」をテーマにした取り組みは、今年で 10 年目を迎えました。「もう一度やってみよう試してみよう」と、学校での体験をご家庭で、追体験、再確認できるような活動を目指しました。家族で学校での活動に、もう一度挑戦したという報告をたくさん聞くことができました。種子の秘密を調べた 3 年生は、家庭で種子モデルを作って調べ、「フタバガキのたねは、ヘリコプターの羽にするといいかもしれない。」というアイデアを教えてくれました。2 年生は、静電気の力で風船の上にレジ袋の輪を上手に浮かせたそうです。暮らしの中の科学を見つける視点が育つことを願っています。

コハク磨き(6 年生)

【 栽培委員会 】

栽培委員会では、年間を通して、学校の花壇でさまざまな植物を育てています。最初の委員会時に、自分たちで育てたい野菜や果物を決め、毎朝交代で水やりをしました。

これまでニンジン、キュウリ、サツマイモ、メロン、イチゴなどを栽培しました。夏の暑さや強風により、なかなか育たないこともありましたが、委員会の子どもたちの頑張りによって収穫することができました。収穫後は、みんなで育てた野菜や果物を美味しくいただく楽しさを感じながら、嬉しそうに味わいました。

開校記念週間では、野菜についてみんなに知ってもらうために全学年に向けた「野菜クイズ」を行い、正解した子は翌日に行われる小松菜、はつか大根の「収穫体験」をしました。体験に来た低学年に優しく教える姿はとても頼もしかったです。今後も、楽しく活動していきます。

【 アートクラブ 】

アートクラブは、ものづくりが大好きな子どもたちが集まり 28 人で活動しています。今年度は、スライム、宝石石鹸、ミニ黒板、Xmas カードを制作してきました。現在は陶器の箸置きと写真立てを制作中です。生活の中で楽しむことができる課題で、お家で活用するところを想像しながら、穏やかに和気あいあいと制作しています。個人制作が主なので目立った異学年交流はありませんが、学年を超えて互いの作品に感心しあっている姿をよく見かけます。色の塗り方を見て、「これ〇〇ちゃんっぽいね」などの声も聞こえてくるようになりました。展覧会では、ミニ黒板を玄関に展示しました。もうすぐ今年度のクラブは終わりますが、いつまでも制作を楽しむ心を持ち続けて欲しいと願っています。

【 サッカークラブ 】

サッカークラブは 4 年生 12 名、5 年生 7 名、6 年生 4 名で活動しています。晴れている日は、第 2 校庭でサッカーの練習や試合、雨の日には校舎内で安全にできる運動をして過ごしています。4～6 年生混合のチームを 4 つ編成し、サッカーに取り組んでいます。異学年の友達が同じチーム内にいるので、学年の垣根を越えて楽しく活動をすることができています。

この 1 年間を振り返ると、成長できた部分がたくさんあります。今でこそ学年関係なくサッカーを楽しんでいますが、最初からこうではありませんでした。同じ学年内の友達としかコミュニケーションがとれていなかったり、6 年生任せになったりしていましたが、回を重ねるごとに、サッカーを通じて意思疎通が図られ、今では一人一人が主体的に取り組み、サッカーを楽しむことができるようになりました。